

令和3年度事業報告

I. 総括

本会は、健康でたくましい県民の育成を図るため、県民総スポーツならびに競技力向上を目指して積極的に諸事業を実施した。

第76回国民体育大会（三重国体）に向けて、新型コロナウイルス感染症防止対策に伴う種々の対応が求められる中、強化練習・遠征等の競技力向上対策に取り組んだ。この結果、第42回北信越国民体育大会では、中止となった4競技11種目を残して、茨城国体と同等の68種目で本国体出場権を獲得した。しかしながら、感染症拡大の影響により、三重国体が中止となったことで、本県選手団が活躍する姿を見ることができなかった。

第77回国民体育大会冬季大会では、3年ぶりに完全開催となった。厳しい感染対策の環境下であったが、スキー競技で1種目優勝、スケート競技で2種目入賞し、冬季総合順位26位と健闘した。

県民スポーツ祭では、「1県民1スポーツ」の推進や、各競技の福井国体開催地における開催を推奨し、レガシーの継承に努めた。感染症拡大のため、中止を余儀なくされた競技もあったが、開催した競技においては万全の予防対策を講じ、昨年度に続けて、1人も感染者を出すことなく会期を終えることができた。

開催予定であった本会各種事業等を、感染症拡大防止のため、中止や書面による決議とした。

第43回北信越国民体育大会（2022福井県開催）、日本スポーツマスターズ2023、ふくい桜マラソン2024の開催に向けて、福井県との連携・協力を進めた。また、福井県スポーツ協会創立75周年記念事業の準備を始めた。

II. 事業内容

1. 競技力向上事業

(1) 競技力向上対策事業

本県の競技力向上を図るため、各事業を積極的に取り組んだ。

事業名	内容
国体強化対策事業	競技団体に対し、当年国体に向けた強化費を補助した。 <u>41 競技</u>
プレ強化事業	競技団体に対し、次年度国体に向けた強化費を補助した。 <u>1 競技</u>
アスリートのU・Iターン推進事業	県内の強豪高校の選手に対し、下宿費用を補助した。 <u>80 名 (15 競技)</u>
ふくいナショナルアスリートマルチサポート事業	スポンジオブふくい等で県内就職した日本代表級の選手に対し、競技活動費を補助した。 <u>12 名 (8 競技)</u>
特別強化コーチ配置事業	東京五輪を目指す選手や、本県への永住を検討している選手を雇用した。 <u>23 名 (12 競技)</u>

トップ指導者育成事業	<p>競技団体で今後の中核的指導者になり得る若手指導者に対し、資質向上研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年11月7日 福井県営体育館 30名 ・令和3年12月19日 福井県営体育館 23名 ・令和4年1月16日 福井県営体育館 26名 ・令和4年2月12日 オンライン配信 19名 ・令和4年2月26日 オンライン配信 24名
専門トレーナー派遣事業	<p>競技団体に対し、専門的知識を有するトレーナーを派遣した。<u>4競技</u></p>
未来のアスリート発掘・育成事業	<p>①ふくいジュニアアスリートアカデミー選考会・合同競技体験会の実施</p> <p>子どもたちの才能や可能性を発見し、有望選手を発掘した。</p> <p>【選考会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年11月14日 敦賀市総合運動公園体育館 40名 ・令和3年11月28日 福井県営体育館 120名 <p>【体験会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年11月28日 福井県営体育館 250名 <p>②ふくいジュニアアスリートアカデミーの実施</p> <p>トップアスリートを目指す子どもたちに対して、年間を通じて、スポーツに関する身体的・知的能力等を高める育成プログラムを（10回）提供した。</p>
ジュニア育成強化事業	<p>競技団体に対し、ジュニアの人材発掘および継続育成費を補助した。<u>34競技</u></p>

(2) 積善会スポーツ振興事業

積善会助成金を活用し、少年選手のスポーツ振興に取り組んだ。

事業名	内容
ジュニアアスリートサポート事業	新型コロナウイルス感染症拡大のため大半の国際大会が中止となり、国外派遣がなく、激励金を交付できなかった。

(3) 関係会議等開催事業

スポーツ関係団体との連携・協力を図るため、諸会議を開催した。

会議名	内容
競技力向上対策委員会	<p>次年度国体に向けた競技力向上対策を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年6月24日 福井県営体育館
国体入賞対策会議（県と共催）	<p>今年度国体に向けた競技力向上対策を検討した。 （併せてコンプライアンス研修会を実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月16日 福井県自治会館
国体結果検討会（県と共催）	中止
加盟団体理事長会議	<p>競技力向上対策の具体的方策を情報提供した。 （併せてコンプライアンス研修会を実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年3月18日 オンライン配信

2. 国体等派遣事業

(1) 国体派遣事業

国体に、本県代表として選考された監督・選手を派遣した。本大会は中止のため、派遣しなかった。

大会名	会期	開催地	参加者数
第76回国民体育大会	中止	—	—
第77回国民体育大会 冬季大会	<スケート・アイスホッケー競技会> 令和4年1月24日～30日 <スキー競技会> 2月17日～20日	栃木県 秋田県	スケート 5名 アイスホッケー 17名 スキー 31名

(2) 北信越国体派遣事業

北信越国体等に、本県代表として選考された監督・選手を派遣した。北信越国体の一部競技会では中止のため、派遣しなかった。

大会名	会期	開催地	参加者数
第42回北信越国民体育大会	令和3年 8月20～22日	長野県	692名
第77回国民体育大会冬季大会 アイスホッケー競技会北信越・東海ブロック予選会	令和3年 12月17～19日	愛知県	23名

3. スポーツ医科学研究推進事業

(1) 医科学活用推進事業

成年・少年強化指定選手を対象に、スポーツ医科学の研究成果を取り入れた計画的な練習やトレーニングの導入、栄養管理、傷害予防、メンタルトレーニング、リハビリ等の医・科学サポートの実践を通して競技力向上を行った。

事業名	内容
スポーツ医科学に関する問診調査 およびメディカルチェック	国体候補選手（1,560名）に対し、アンケートを行った。 1名が個別受診し、精密な診察を受けた。
スポーツ医科学専門家の国体帯同 およびチームサポート	APTの帯同は中止した。メンタルトレーナーのチームサポートについては9競技に行った。
福井県スポーツ医科学研究大会	中止

(2) 研修会等開催事業

国体選手を中心にドーピング防止教育や啓発を行った。また、競技団体や学校に心理、栄養、アンチ・ドーピング、女性アスリートサポートの出前研修会を行い、選手や指導者の意識高揚と知識の蓄積を行った。

研修会名	回数	参加者数等
アンチ・ドーピング研修会（リモート）	1回	15名
(各種)出前研修会 ・アンチ・ドーピング（リモート） ・メンタルトレーニング	1回 122回	15名 約140名

4. 競技会開催事業

(1) 県民スポーツ祭開催事業

県民の様々なスポーツニーズに応え「1 県民 1 スポーツ」推進のため、68 競技・種目による「県民スポーツ祭」を開催した。また、令和 2 年度より福井国体・障スポの融合を継承し「障がい者の部」を新設した。しかし、前年に引き続き感染症拡大のため、小学生の部、高校の部の一部競技など、開催を断念した団体も少なからずあった。実行委員会では、感染防止ガイドライン徹底や非接触型体温計・飛沫防護用アクリル板・消毒液等を整備し、競技会開催を後押しした。

区 分	開催期日	開催地	参加者数
68 競技・種目 (内、57 競技・種目を実施)	令和 3 年 4 月～令和 4 年 2 月	県下一円	19,523 名
総合開会式 みんなでスポーツフェスタ	中止	—	—
はぴりゅうフェスタ	令和 3 年 12 月 11 日～12 日	サンドーム福井	3,788 名

(2) 第 43 回北信越国民体育大会開催事業

令和 4 年度に本県で開催するため、福井県準備委員会を設置し、準備を進めた。

(3) 日本スポーツマスターズ 2023 開催事業

県民の生涯スポーツのより一層の推進を目的に、令和 5 年度に本県で開催するため、県と協働して準備を進めた。

5. 関係団体育成事業

(1) スポーツ振興事業

本会正加盟の市町スポーツ協会等や競技団体等が行うスポーツ普及振興事業に助成し、「1 県民 1 スポーツ」を推進した。(64 団体)

(2) 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業

クラブアドバイザーを配置し、総合型クラブの創設から自立・活動まで支援した。

また、総合型地域スポーツクラブ福井県連絡協議会の活動を推進した。

(会員 28 クラブ)

(3) スポーツ指導者協議会振興事業

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資質向上と活動促進を図るため、福井県スポーツ指導者協議会の活動を推進した。(会員 2,217 名)

6. スポーツ指導者育成事業

(1) スポーツ指導者養成講習会事業

県内スポーツ指導者が適切且つ効果的な指導方法を学ぶため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の取得講習会を開催した。

資格種類	講習会名	受講者
競技別指導者資格	コーチ1養成講習会（スポーツクライミング）	7名
マネジメント資格	アシスタントマネージャー養成講習会	19名

(2) スポーツ指導者研修会事業

県内スポーツ指導者の資質向上と活動促進を図るため、福井県スポーツ指導者協議会の協力を得て研修会を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

研修会名	開催期日	開催場所	参加者数
越前市スポーツ指導者研修会	中止	—	—
福井県スポーツ指導者研修会	中止	—	—

7. スポーツ少年団育成事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県スポーツ少年大会が中止となった。指導者養成事業は、県内各地で4コース開催し、計179名が受講した。指導者の資質向上ならびに母集団の組織整備等については、感染状況に応じながら実施を推進した。

令和3年度の福井県スポーツ少年団の登録は、団数450団、団員数8,103名、指導者数1,370名、役員・スタッフ857名となった。

事業名	内容
第56回福井県スポーツ少年大会	中止
第48回日独スポーツ少年団同時交流	実施形態をオンライン開催に変更し、日本団員とドイツ団員の交流を図った。(1名)
指導者および育成母集団研修会	指導者および団員保護者に対して研修会を開催した。 ・令和3年9月18日 ハートピア春江 44名
スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会	スポーツ少年団向けの指導者資格養成講習会を行った。 ・令和3年10月9日 勝山市体育館ジオアリーナ 34名 ・令和3年10月16日 おおい町総合町民センター 49名 ・令和3年10月30日 越前市健康福祉センター 47名 ・令和3年12月18日 福井市体育館 49名
アクティブ・チャイルド・プログラム（JSPO-ACP）都道府県普及推進研修会	アクティブ・チャイルド・プログラム（JSPO-ACP）を周知、普及するため、指導者や保護者に対して研修会を開催した。 ・令和3年11月27日 南条文化会館他 11名 ・令和3年12月11日 永平寺町緑の村ふれあいセンター 10名 ・令和4年1月29日 美浜町保健福祉センター 中止

第 41 回北信越ブロックスポーツ少年団競技別交流大会	北信越ブロックスポーツ少年団員が本県に会し、大会を通じて交流した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニバスケットボール競技（女子）：中止 ・バドミントン競技（女子）：中止 ・卓球競技（男・女）：中止 ・バレーボール競技（男子）： 令和 3 年 11 月 7 日 トリムパークかなづ体育館
子どもの運動遊び定着のための官民連携推進事業（委託事業）	子どもを対象に、アクティブ・チャイルド・プログラム（JSPO-ACP）を活用して、身体を動かすことの楽しさと喜びを体験する環境を整え、運動習慣を定着させることを目的とした事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年 10～11 月（5 回） 大野市 107 名

8. 広報・情報提供事業

(1) 広報普及活動事業

国際大会や国体等における本県選手の活躍、事業活動内容、各種表彰等を広報するため、「スポ協ニュース」を発刊した。（4 回 6,400 部）

(2) スポーツ情報公開事業

ホームページ等を活用して、当協会に関する情報を積極的に公表するとともに、当協会の諸事業活動を周知した。

9. 表彰事業

本県のスポーツ振興に著しく貢献したものを表彰した。

表彰名	対象者	実施期日	受賞者数
スポーツ功労者賞 スポーツ功労団体賞	本会または加盟団体の発展のために長年尽力し、功績が顕著な個人・団体	令和 4 年 1 月	28 名
優秀選手賞	当年内に、全国大会ならびに国際大会で優秀な成績を収めた者	令和 4 年 1 月	139 名
優秀指導者賞	前項の優秀選手を育成した指導者	令和 4 年 1 月	4 名
国民体育大会賞	当年国体で、天皇杯および皇后杯得点に貢献した競技団体、監督、選手	令和 4 年 1 月	5 名 1 団体
特別表彰	本県のスポーツ振興に長年にわたって尽力し、特に顕著な功績を残した者	令和 4 年 1 月	20 名

10. その他

(1) 創立 75 周年記念事業

昭和 21 年度に福井県体育協会として創立し、令和 3 年に 75 周年を迎えることから、「公益財団法人」として移行後 10 周年と併せて記念事業を実施するため、準備委員会を設置して、準備を進めた。

(2) 全国大会、ブロック大会および県大会の共催・後援

本会加盟団体等の主催大会を必要に応じて、名義共催・後援した。(計 60 回)

(3) 安全管理の強化の取り組み

「国民体育大会参加者傷害補償制度」「加盟団体の賠償責任保険」「スポーツ安全保険」への加入を促進した。

【スポーツ安全保険】

対象活動	加入区分	加入者数
中学生以下のスポーツ・文化活動	A1・AW	29,901 名
高校生以上の文化活動等	A2	2,898 名
65 歳以上のスポーツ活動	B	4,351 名
高校生以上のスポーツ活動	C	14,280 名
危険度の高いスポーツ活動	D	0 名
短期スポーツ教室		20 名